

NPO法人

HUGこどもパートナーズのミニコミ誌

HUGコミ

第22号

2015年3月

hug.com

発行元:NPO法人HUG
こどもパートナーズ（東村山市秋津町）/TEL&FAX:050-3510-4587/E-Mail info@npohug.com/URL http://npo

HUGの活動紹介

今年度も
盛りだくさん
でした！

ここP 2014報告

ここP（3.11 ここからプロジェクト）は東日本大震災のあと、原発や放射能に関して「みんなで語り合う場がほしい」というママたちの声を受けて生まれた、HUGのプロジェクトです。

7月7日 DVD「カノンだより」
上映&おしゃべり会

切尔ノブイリ事故後のベラルーシやウクライナ、そして東京電力福島第一原子力発電所の事故後の福島で、子どもたちを支える人々を記録した鎌仲ひとみ監督の最新作「小さき声のカノン」の制作過程で撮影した映像をあつめたDVD「カノンだより vol1」を見て、おしゃべりをしました。震災から3年あまり、震災が風化しつつあるこ

と、でもまだ心配な気持ちはあること、そしてそれを口に出しにくくなっていることなど、みんなで話しました。（地域福祉センターにて）



DVD「カノンだよりVol.2」上映+おしゃべり会
2015年3月12日(木)10:00~12:00(400円)
震災から4年たった福島、事故から29年になる切尔ノブイリ……。おさん連れでどうぞ！
会場…いきいきプラザ3F 地域活動室
※問い合わせ 080-3385-2148（鈴木）



10月9日 からだにいいお弁当を作つて食べよう！

天気のいい日は外でお弁当を食べたいよねと始まつたお弁当企画。マイ弁当箱に発酵食品をつかったおかずを詰めておしゃべり。もちろん講師による食べ物とからだ、そしてお弁当のコツなどの講義も！（富士見公民館にて）



みんなのお弁当が大集合！

食べ物おしゃべり会 おやつを食べながら過ごすおしゃべり会も開催しました。食べ物のことやからだのことなど、子どもと一緒にホンネトークを楽しみました。

5/27 子どもといっしょに楽しいごはん
12/9 からだにいい食べものって？

2015年も上映会やおしゃべり会などを予定しています。
お楽しみに！

<http://npohug.com/>



ファミサボ便利

「リスクマネジメント研修を行いました。
～知る・予防する・備える～」

ファミリー・サポート・センターでは1月26日に提供会員向けの研修を行いました。依頼会員のお子さんをお預かりするときに、部屋の中でも、どんな事故やケガにつながる危険があるか予測し、予防することで、安心・安全なお預かりを続けていくように改めて学びました。

◆キッチン◆

刃物だけではなく調理器具なども、子どもが触ればケガや事故につながる場合があるのではないか？

危険を予測してみました



◆テーブル・棚・床の上◆

割れ物や重い物は、触れたり落としたりすればケガにつながるのではないか？ビニール袋などは頭にかぶれば窒息する危険があるのではないか？食べられる物でも、子どもの口では喉に詰まらせるようなものはないか？

◆電化製品◆

熱や蒸気の出る家電に触ると火傷をするのではないか？設置場所により、コードが転倒や首絞めの原因になる危険はないか？

◆扉・引き出し◆

開閉時に指をはさんだらケガをするのではないか？

◆階段・高い椅子◆

登つてしまい転落した場合にケガや事故につながるのではないか？

会員同士で意見を出し合い、これは特に問題が大きいというものを絞り込み、自分達ならどう予防するかということを話し合いました。そして、大切なことはなにか、全員で再認識しました。

1. 子どもの行動を予測し、手の届くところに危険なもの（につながるもの）を置かないこと
2. 子どもから目を離さないこと

ファミサボでは随時こうした研修を行い、会員さんの更なるステップアップを目指しています！

子ども選挙へ行こう!!



4月26日(日) 東村山市 市議・市長選挙

- ★20代、30代の選挙の投票率が低い
★子どもたちに選挙権がない

子育て中やこれから子どもを産み育てる世代の意見が政治に反映されにくくなっています。子ども達のこと、私たちの今、そして未来のことを真剣に考えてくれる政党、政治家を選ぶ目を持たなくちゃ!!

私たち「親」の一票は、選挙権を持たない子どもの分も含めた大事な一票です！

★期日前投票★
投票日に行けない人はぜひ！思っているよりずっと簡単♪

春はもうすぐ。卒入学のこの時期は子ども達にとって心躍る季節というだけでなく、大人とっても心新たになる季節ですね。■これまでHUGでは支援の担い手を増やしていくといったことと、赤ちゃんの体の発達で大切なことをママ達に伝えたいという思いから、二つの講座を企画実施しました。■一つは1/9臨床心理士永田陽子先生の『子育て支援者の役割・あり方とは…』。これから子育て支援活動をしようとする人にもスタッフ経験者にも目からウロコのお話が満載でした。印象に残ったことの一つは、グループごとに自分達が子ども達に遊んだ遊びと遊び場をリストアップして、それが今あるか（できるか）を皆で話し合つたこと。今の子ども達にとっていかに遊ぶ環境が減少しているかを痛感しました。■講座二つ目は3/2「どうしてそんなにハイハイが大事なの？」（日本児童健康体育協会 池田先生）。約20組の親子さんが参加して、実際に体を動かしながら学びました。■ささやかではありますが、私達の活動が少しでも子育て中のママ達に役立つこと、また豊かな地域になることを願つて、これからどんな活動をしていくか、計画真っ最中です。皆さんの声もぜひ聞かせて下さい。■大震災から4年。復興までの道のりが長びくにつれ、被災地の子ども達に深刻な影響が出ているとのニュースに心が痛みます。■今回のHUGコミ特集は「介護」。直面しているスタッフ急増中！

雑記報

春はもうすぐ。卒入学のこの時期は子ども達にとって心躍る季節というだけでなく、大人とっても心新たになる季節ですね。■これまでHUGでは支援の担い手を増やしていくといったことと、赤ちゃんの体の発達で大切なことをママ達に伝えたいという思いから、二つの講座を企画実施しました。■一つは1/9臨床心理士永田陽子先生の『子育て支援者の役割・あり方とは…』。これから子育て支援活動をしようとする人にもスタッフ経験者にも目からウロコのお話が満載でした。印象に残ったことの一つは、グループごとに自分達が子ども達に遊んだ遊びと遊び場をリストアップして、それが今あるか（できるか）を皆で話し合つたこと。今の子ども達にとっていかに遊ぶ環境が減少しているかを痛感しました。■講座二つ目は3/2「どうしてそんなにハイハイが大事なの？」（日本児童健康体育協会 池田先生）。約20組の親子さんが参加して、実際に体を動かしながら学びました。■ささやかではありますが、私達の活動が少しでも子育て中のママ達に役立つこと、また豊かな地域になることを願つて、これからどんな活動をしていくか、計画真っ最中です。皆さんの声もぜひ聞かせて下さい。■大震災から4年。復興までの道のりが長びくにつれ、被災地の子ども達に深刻な影響が出ているとのニュースに心が痛みます。■今回のHUGコミ特集は「介護」。直面しているスタッフ急増中！

トコトコメンバーは、こんなコトしてます♪

● 編集と印刷・製本だけに力を費しているわけではありません。

遊ぶの大好き、食べるの大好き、集まるの大好きなワタシたち。

いろいろ、やってるんですよ～♪

*100号記念はクリスマスと重なったので、参加自由のオーナン企画を開催。

クリスマスリース工作や絵本の読み聞かせなどのイベントをやりました。

お花見

中央公園
天王寺公園など 単なる
お花見+おしゃべり
ではありません。
「だるまさんがころんだ」「
パン(あめ)食い競走」
などをマジでやります。
「おかしつりゲーム」
などもやりました。

変わりお食事会

パフェの会
どう焼きの会
盛り放題
あん、クリーム類
以外に、
サンシンな物も
はさんでみる。

子ども服・おもちゃ交換会

上は中学生、下は生まれて、
子どもがたくさんいるので
お下がりの交換をよくやります。
スタイル
のものは大人気。

ふくふくダイアリー 「トントンくるりん」

誰もが一度は通るといつても過言でないほど、ふくふくで人気のおもちゃ『トントンくるりん』。上から玉を入れるとくるくる回って下から出てくる単純なおもちゃですが、実は奥が深いのです。赤ちゃんが『トントンくるりん』で遊ぶには、とても高度な技術が必要なのです。

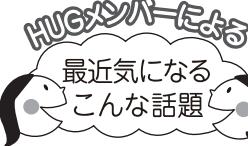
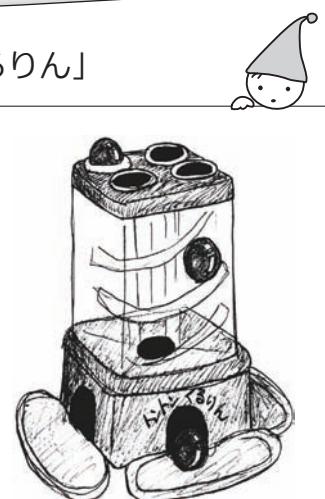
- ザッとあげてみても、①お座りができる
- ②ボールがつかめる
- ③ボールを落とさず下から上へ運ぶ
- ④穴に狙いを定める
- ⑤ボールを離して入れる

こんなに、いろんなことをクリアしないとできないんですよ。

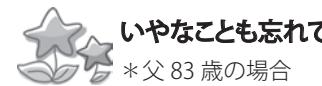
特に⑤がポイントです。赤ちゃんは、手をギュっとぎっていますが、5、6ヶ月頃から物をつかむようになり、つかんだものを離せるようになるのが、ちょうど1歳頃。

たまに「昨日まで入れられなかったのに、今日初めていました」という瞬間に立ち会わせてもらうことも。そんな時は、本当にうれしくなります。

赤ちゃんのしぐさの裏に、いろんな成長のドラマがあるんだと気づかってくれるおもちゃ、『トントンくるりん』のお話でした。



介護あれやこれや



いやなことも忘れてくれてありがと!

*父 83歳の場合



赤ちゃんにかえっていく

*義母 82歳の場合

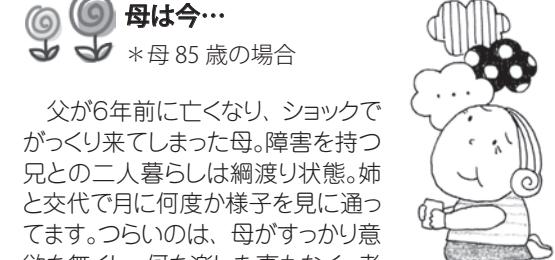
年齢のわりには元気な義母。でもさすがに最近は整形院や内科に付き添うことが多くなってきた。同居して4年、当初は私も遠慮がちだったが、段々図々しく(?)体調不良時の世話を思い切って出来る様に…。最近では、義母の志村けんさんのコントのおばあちゃんのような口調が私にもちょっとつづつきて「あんだか寒いね～(義母)」「そーだね～(私)」なんて。

一方、実母は大昔に40代で病気であっけなく亡くなり、介護したのは2ヶ月ほど。でも短く濃い時間の中で私の知らない母の若い頃の事などいろいろ話せて、最後まで一緒に居られて良かった。老人専門病院に勤めてた母は、「お年寄りは赤ちゃんにかえってくみたいでかわいい時あるのよ!」と言ってたっけ。自分が年取った時どうしてもらいたいかなあ、なんて思ながらユルく義母と一緒に暮らしています。(A)



母は今…

*母 85歳の場合



おばあちゃん見守りに大汗 (*_*)

* 義母 88歳の場合

8年前に同居後、室内で3度転倒骨折、そのたびに認知が進んできた義母。不自由な足で歩行器をゴトゴトさせながら家中を徘徊しまくり、たった今トイレから戻って座ったとたんに立上り、目的を忘れてまた戻り…と、とにかく忙しい。いきなり窓を開けたり髪を洗ったり思いがけないことをするので、うっかり注意し逆に興奮させて大泣きされ、夫も私も驚沈(笑)。

本人のしたいようになるべく黙って見守るのがコツ?と頭では悟ったものの、体にしみついた「話せばわかる」神話がぬけきれず…。この人には話が伝わらないのだと本気で認めるのは、すごく難しくキツイことだと気づいたこの頃。まだまだ修行がたりないようです。(M)



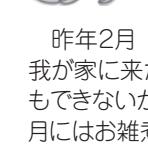
元気でなにより。わが家の事情 ^_~;

* 義父 83歳の場合

義父と同居を機に今の家を建てた。下の階…義父の部屋と趣味の音楽室。上の階…リビングキッチンと部屋大1つ、家族4人で寝ることに。「女の子と男の子だから、子どもが大きくなったら2つに分けて、私達は義父の部屋に移れるようにな。」

そう考えてから早10年、娘も中1に。娘「そろそろ部屋が欲しいんだけど、いつ2つに分けてくれるの?」夫「いつって…、わからないよ。そのうち待ってなさい」私「待ってたら、大人になっちゃうかもね。(^_~;)」

待つって何を? 我が家の83歳、超元気。忘年会参加は13日! いや、元気で何よりなんですが。現在、せめて男部屋と女部屋にするかと計画中。(T)



子育て以来の終わりの見えない日々

* 父 88歳の場合

昨年2月13日、父が余命3ヶ月と言う事で退院して我が家に来た。そして1年が過ぎ、歩けなくなるか、咀嚼もできないかも、と言われていた父は、室内なら歩け、正月にはお雑煮を食べた。

「わーすごい!! 良いことばかり」と言われるかもしれないが、私は複雑。2.3ヶ月なら、と思いきどったが、あと何年続くのか?というのが正直な気持ち。話すのも気が重いけど、改めてどの様に生活して行くか、一緒に考えなければならないと思っている。

この1年でよくわかったのは「年寄りが1人で生きるのは難しく、栄養、睡眠、服薬、衛生管理…様々な面で誰かの手を借りなければならない」という事。自分も年を取ったら、1人でのんびり、ぼっくりなんて思ってたけどね。(Y)